

5月15日～6月15日は「トゥレット症候群 啓発月間」です

トゥレット症候群 啓発イベント2024

◎ 上映会：トゥレットなんかには負けないぞ！

◎ 医療講演会：チック、トゥレット症候群の医学的理解

— 児童期から青年期にかけての治療動機に注目して —

5/26

日曜日

14:00～16:00

(開場 13:40)

「トゥレット症候群」を知っていますか？

街中で不自然な動きをしている人や、
突発的に声を出している人を見かけたことはありませんか？
もしかしたら、それは「トゥレット症候群」かもしれません。
トゥレット症候群は「運動チック」と「音声チック」が1年以上続く
神経発達症です。その「動き」や「声」は簡単に止めることは出来ず、
周囲からの誤解や偏見を受け、患者たちは辛い思いをしています。
多くの方にトゥレット症候群を正しく知っていただくために
皆様のご参加をお待ちしています。

◆ 内容：1) 上映会「トゥレットなんかには負けないぞ！」

2) 医療講演会

講師/新井 卓先生(子どもメンタルクリニック院長)
* 2010年～2022年まで、神奈川県立こども医療センター
児童思春期精神科部長

3) 質疑応答

→ 上映会、医療講演会の詳細は裏面をご覧ください。

◆ 会場：成城ホール 集会室C&D(3階)

住所/東京都世田谷区成城6-2-1

◆ アクセス：小田急線成城学園前駅 北口より徒歩3分

◆ 参加費：100円(資料代として)

◆ 申込：要申込み・先着順(定員80名)

「トゥレット友の会」ホームページの【イベント】ページ
よりお申込みください。(4月14日より申込み開始)



トゥレット友の会
ホームページ

Marie

【主催】トゥレット友の会

【共催】世田谷区

【後援】厚生労働省 / 世田谷区社会福祉協議会 / NPO法人日本トゥレット協会

医療講演会／講師：新井 卓先生 (子どもメンタルクリニック院長)

チック、トゥレット症候群の医学的理解

ー 児童期から青年期にかけての治療動機に注目してー

トゥレット症候群はチック症状や併存症により日常生活が著しく制限されるだけでなく、意図的に行っているわけではないのに、周囲からは“わざと”しているように思われる、あるいは症状をごく短時間であれば止めることができることから、頑張れば止められる、など周囲から誤解され、辛い体験をすることもしばしばです。今回はトゥレット症候群の当事者と関わる支援者が理解しておきたいトゥレット症候群の医学的理解に加えて、当事者自身の治療動機(治したい気持ち、治療を受ける姿勢)について、年代による変遷や影響を与える様々な要因についてお話しさせていただきます。

子どもメンタルクリニック



上映会 (約30分)

「トゥレットなんかには負けないぞ!」

この作品は米国トゥレット協会とHBO(米国のケーブルテレビ会社)が共同制作した“**I Have Tourette's but Tourette's Doesn't Have Me**”の日本語字幕付き版です。

トゥレット症候群の子どもたちが自身のチック症状と向き合い、成長していく姿を追ったインタビュー形式のドキュメンタリー作品。お子様にも是非ご覧いただきたい内容です。

(2006年 エミー賞 受賞作品)

【トゥレット症候群(トゥレット症) / チック障害(チック症)】 Q & A

Q: チックとは何ですか?

A: チックは突発的で、素早く繰り返される不随意、或いは半随意的運動(動きや声)で、簡単に止めることは出来ません。症状は千差万別で、重症度も個々により差があります。

Q: トウレット症候群とは何ですか?

A: 複数の運動チックと1つ以上の音声チックが1年以上続く症状です。ICD-11*では神経系疾患の運動障害とされ、第二の分類先として「神経発達症群」や「強迫症または関連症群」に記載されています。

(*ICD-11=世界保健機関が作成する「国際疾病分類」の第11版)

Q: トウレット症候群の有病率はどれくらいですか?

A: DSM5*によるとトゥレット症候群の推定有病率は学童期の子どもでも1000人あたり3~8人の範囲であるとされています。(*DSM5=米国精神医学会が作成する「精神疾患の診断・統計マニュアル」の第5版)

Q: チックの原因は何ですか?

A: 詳しいことは分かっていませんが、ドーパミン系を中心とする脳神経のアンバランスが示唆されています。

Q: チックは、社会ではどのように理解され、当事者サイドはどのような思いをしているのでしょうか?

A: チックは、かつては「心因的なもの」「親の育て方のせい」などとされていたため、現在でも誤解を受けることが多く、本人や家族は辛い思いをしています。また、当事者に対し、「変な人」「頭がおかしい人」といった目が向けられ、当事者サイドは心に深い傷を負うような言葉を浴びせられたり、差別を受けたりすることがあります。

Q: チック以外で困ることはありますか?

A: トウレット症候群は神経発達症群の1つであり、注意欠如・多動症、学習症、発達性協調運動症等が併存することもあります。また、強迫症、怒り発作、不安症、感覚過敏・鈍麻、抑うつ、睡眠障害、不登校といった症状を招くこともあり、QOLが著しく低下し、日常生活や社会生活に支障を来すケースもあります。

*記事や画像の無断転写・転載はお控えください。

【問合せ先】トゥレット友の会事務局 E-mail : tourette.fs@gmail.com 電話 : 090-7000-7837

**【主催】トゥレット友の会 【共催】世田谷区 【後援】厚生労働省 / 世田谷区社会福祉協議会
NPO法人日本トゥレット協会**